

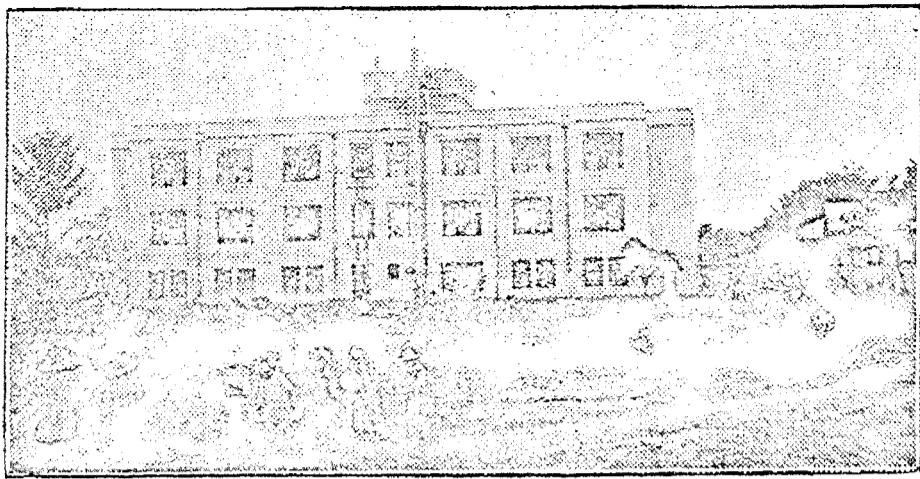
東北學院時報

第六十八號

竣成せる専門部校舍

【写真説明】

總建坪數、延建坪六百坪
構造、鐵筋コンクリート、ノルマンイ
ンク式、外面は秋保産長路石の總張



地下室、生徒集會室、キッチン、便所
ゴイラールーム
二階及び三階、クラムルーム、圖書室、職
員室及びラジアルーム
屋上、運動及び集會用
其他室内廊下にはリノリュームを敷きつめ
たる點、スチームパイプがら何時でも温水
を撤下して運動後の汗を洗淨する装置等あ
りて學校建築としては東洋一と稱せられて
ゐる。

會告

今春改正された規則に基づき來
る十月十六日午後四時（献堂式直
後）専門部新校舍に於て同窓會總
會を開催しますから御出席を願ひ
ます。

東北學院同窓會長

出村 悌 三部

同窓會員各位

本年三月開催の同窓會總會で評
議員選舉法改正の議が起り、其草
案委員として出村悌三部、鈴木義
男、阿部豊吉、阿部從二、伊藤嘉

吉の諸氏が擧げらるゝこととなり
ました。而して委員等は過般會合
熟議の結果左の如き大体的方針を
立て、尙ほ各方面から意見を徴し
最後に成文として總會に提出しよ
うと考へて居ます。同窓會員諸兄
ごなたでも之に關して此上に尙ほ
智慧を借して下さる方があれば幸
甚と存じます。

一、評議員數は現在の如く十六名
とす。

一、神學部、専門部、中學部等各
部卒業業者中より各四名宛、東
京支部、仙臺支部より各二名
宛を選舉す。

一、各支部代表者は支部會員之を
選舉し、他の評議員は出身學
部の區別なく諸處に在る一般

Dear Alumni,

Forty years ago Messrs. Oshikawa and Hoy were led by the Spirit of God to found in Sendai a Christian school for the education of young men. They started with seven young men. They had no money, but they had a great vision, and trusted in God for help. They labored and prayed earnestly. As a result the school grew more and more. It was named Tohoku Gakuin. The school has now existed forty years, and during these years several thousands of young men have received the influence of the school, and are now doing a noble work in the world. Shall we not celebrate the completion of forty years of the history of the Mother-school with much gratitude and enthusiasm?

It is my earnest hope that on that occasion I may have the joy of seeing many hundreds of the alumni. Please come. Besides the celebration will be the dedication of the new building for the Semmonbu. Please come. Please give the Mother school the encouragement of your presence. Please come.

Yours affectionately,

D. B. Schneder

會員之を選舉す。

一、選舉に先立ち倍數の候補者を擧ぐ。

一、會長の指名により各部卒業業者中より五名宛の候補者選定委員を擧ぐ、但し右選定委員は自ら候補者たり得るものとす
一、評議員の任期は二年とし、毎半年數改選を行ふ。

（伊藤嘉吉）

創立第四十年記念式と専門部校舍落成式

出村悌三部

記念式及び落成式の日取併而式の執行順序の豫定は前號に於て院長所報の通りであります。即ち十月十六日（土）から始まつて同十九日（火）に終ることになつてゐます。特に十六日午後六時即ち同窓會總會後引續き新校舍食堂に於て創立者、來賓、舊教職員、現在教職員、同窓會員合同の大晚餐會を開きます。院長も繰返して仰言じやる通り同窓生諸君の奮つて、この意義ある會各に御參加あらんことを切望いたします、なほ會費は金書圓當日持參、十月十日迄に阿部幹事まで申込を願ひます。

今や吾々の母校も不惑の齡に達したのであります。この永い四十年の行程を歩み來り此度新装麗はじき専門部校舍を興へられて、一段の勇氣と希望とを以て、更に悠久なる前途に向つて躍進を試みんとする時に、こゝに多くの同窓の

友の相會して過去に於ける天恵を感謝し、更に母校の將來の方針に就いて快談し合ふことは誠に望ましい事ではありませんか。

況んや此度は幸ひにも創立者の押川、ホーイの兩先生もお出になることになつて居ります。吾等同窓會員は是非ともこの得難い好機會に於て、此等の恩人の風采に親しく相接して喜悅を共にし、感謝の意を表し、具に共に母校の將來を祝福しようではありませんか。又一面から考へれば此の記念式は舊友再會の又とない好機會であります。嘗て同窓の下に机を並べて睦び合つた友人も人世の行路に於て業を異にし所を離れ、忙しい夫々の仕事に追はれつゝある吾々は、情に於て昔日と變る所ないにしても、自然と疎遠に傾き易いのは人情の常であります。斯ういふ時にこの記念式の如きを利用して舊友相集うて往時を追懐し舊事を談じ合ふことは極めて愉快な事でもあり、吾等の生涯にとりても大いに意義のあること、思ひます。どうぞ諸君は各々その親しい人々と謀し合はしてこの機會に是非とも集まつていただき度いのであります。

過去は兎もあれ、更に重大なることは母校の將來であります。吾々は學院の使命に就いて益々明晰なる確心と堅固なる決心とを以て